

(3) 祝 辞

通商産業政務次官

田沢 智治

本日ここに、「第五世代コンピュータ国際会議 1984」が開催されるにあたり、一言ご挨拶を申し上げます。

我が国が、世界に先がけて提案致しました第五世代コンピュータの研究開発プロジェクトは、スタートしてから2年余が経過したわけでございます。その間、世界各国においても、同種のプロジェクトが実施されてきており、今回こうした世界共通の目標、課題をテーマとした国際会議に、世界29カ国から、かくも多数の方々に参加していただいたことに、政府と致しましても深く感謝を申し述べるものでございます。また、このような先端的、かつ重要な技術について世界各国の著名な研究者が一同に会し意見交換を行うことは、極めて有意義であり高く評価するのでございます。

近年における情報化の進展は、まことに目をみはるものがございます。特に、超LSI、マイクロコンピュータなどの情報処理技術と光ファイバ、通信衛星などの通信技術の飛躍的發展と、その結合によるネットワーク化を背景として、コンピュータの利用分野、利用形態は、一層高度、かつ多様なものになっており、今や産業分野はもとより社会のあらゆる分野において、コンピュータは欠くことのできない重要な役割を果たすようになっております。

さらに、今後の情報化社会においては、通信インフラストラクチャの上に、産業・社会・生活各の分野でさまざまな情報システムが構築され、これらが相互に接続された巨大な情報システム社会が出現してくることが予想されるわけでございまして、このような高度情報化社会のニーズに適

合する新たなコンピュータの開発が極めて重要になってきているのであります。即ち、我々の情報伝達的手段として使われている音声、あるいは図形等を自由に扱え、かつ、専門家でなくとも容易に使うことができるコンピュータ開発の重要性がますます高まっております。また、その機能も、単なる計算処理や事務処理にとどまらず、経営戦略上の意志決定をサポートするような、より高度なものが求められております。

第五世代コンピュータ・プロジェクトは、まさに、このような機能を備えた画期的なコンピュータの実現を目指すものであり、将来の経済・社会へのインパクトは、まことに大きいものと考えられます。

政府といたしましても、第五世代コンピュータの重要性と技術先端性に鑑み、この研究開発を一層積極的に推進していく考えでございます。

本国際会議の開催にあたり、ご協力をいただきました関係各国の方々に対し、心から御礼申し上げますと共に、関係者の方々のご努力に敬意を表し、本国際会議が所期の成果を収められることを御祈念申し上げます。私の祝辞と致したいと存じます。